

第8回東北放射線医療技術学会を終えて(謝辞)

大会長 永峰 正幸

昨年11月3日・4日の2日間にわたり開催されました学会大会に、560名を超える参加をいただき誠にありがとうございました。10月に仙台市に於いて技術学会の秋季学会大会が開催され、果たして当大会にどれほどの参加者があるのかと心配しておりましたところ、多くの方々にご参集いただき誠にありがとうございました。ひとえに技術学会東北支部坂本支部長、東北地域放射線技師会船水代表並びに関係各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。

さて今回の学会大会のテーマでありました『未来へつなぐ医療への架け橋』、副題に「放射線技術が診療に貢献できること」でしたが、如何でしたでしょうか。

市民公開講座での国際リニアコライダー計画は、震災で疲弊した東北の地に国際的な研究都市が建設され、素粒子物理学の頭脳が結集しその結果、多くの副産物によって得られる技術や経済効果は大いに期待するところでもあります。

いま日本では、2025年問題を抱えています。医療の現状、特に震災後の東北地域における少子高齢化問題はさらに加速され、地域医療構想により病院完結型から地域完結型へと移行し、2次医療圏における医療機能の分化及び病床数は必要量を推計し構築しなければなりません。今や病院は地域の需要に見合うように統廃合され、機能分化により病院から在宅へと医療の充実が図られています。

これからの医療は、介護を含めたチームの一員として、専門職の職責を果たさなければなりません。そのためにも今まで培った技術とスキルを駆使し、安全で安心な検査を施行できる診療放射線技師でありたいと願います。

最後に、(公社)日本放射線技術学会小倉代表理事、(公社)日本診療放射線技師会中澤会長にご臨席を賜り、盛会裏の内に無事閉会出来ましたことに感謝を申し上げ、第9回大会で再び皆様にお目にかかることを祈念し謝辞といたします。